

## 令和元年 11 月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	7	議席 番号	11	氏名	中 村 憲 一 議員	1 / 2
発言項目				要 旨		答弁者
1				小・中学校のプールの整備方針と水泳指導の外部委託及び小・中学校適正規模等基本方針について	<p>文部科学省が調査を行っている「体育・スポーツ施設現況調査」によると、屋外プールがある小学校は、平成20年度の18,610校から平成27年度の15,163校まで18.5%減少。同様に中学校では、6,865校から5,657校まで17.6%減少しており、少子化に伴う小・中学校の統廃合による減少を上回る勢いで減少している。</p> <p>千葉県佐倉市では、人口減少により税収減が予想される中、全校がプールを整備する財政的困難さから、平成26年度までに34ある小・中学校のうち2小学校でプールを廃止し水泳指導を民間スイミングプールに委託。残る32校は新設する市営プールへの移行を検討している。</p> <p>経費的な効果だけでなく、水泳指導を外部委託することにより、専門の指導員による指導内容の充実と安全性の向上、教員の多忙感軽減の効果も認められている。</p> <p>また、教育施設の老朽化に伴う改修や維持管理費という将来の財政負担を考慮し、自治体の歳出の多くを占める教育費もはや聖域たりえないという視点からも、小・中学校の適正規模を模索していかなくてはならない。</p> <p>以上、小・中学校のプール整備方針及び水泳指導のあり方から将来の学校の適正規模を考え、学校のフルセット主義に陥ることなく代替施設を外部に求め、体育は地域の中で行うことが少子化時代の要請であるという観点から、以下質問する。</p> <p>(1) 小・中学校のプールの整備の現状について。</p> <p>① 築年数及び耐用年数はいかがか。</p> <p>② 維持管理費はいかがか。</p> <p>③ 稼働率（利用日数、利用時間）はいかがか。</p> <p>④ 耐用年数に達し、修繕では対応できない場合、新規建設はあるのか。</p> <p>⑤ 新規建設の場合、費用の相場はいかがか。</p> <p>⑥ 各計画での小・中学校のプールの位置付けについて。</p> <p>ア 富士宮市公共施設等総合管理計画ではいかがか。</p> <p>イ 富士宮市公共建築物長寿命化計画ではいかがか。</p> <p>ウ スポーツ施設ストック適正化計画ではいかがか。</p> <p>(2) 水泳指導の外部委託について。</p> <p>① 学校教育の中での水泳授業の位置付け及び時間数はいかがか。</p> <p>② 専門の指導員による指導により、水泳授業の質的向上、安全管理の徹底がなされると考えるがいかがか。</p> <p>③ 体育の専任教員がいない小学校では、教員の負担感、多忙感の軽減につながると思うがいかがか。</p> <p>④ 小・中学校のプールを廃止し、屋内プールである市民プールや民間プール等を活用することにより天候や気候に左右されない水泳授業を提供し、かつ稼働率の向上による公共施設の適正管理の実現、民間活力を促進する水泳指導の外部委託を提案するがいかがか。</p>	市長 関係部長

発言 順序	7	議席 番号	11	氏名	中 村 憲 一 議員	2 / 2
発 言 項 目		要 旨				答 弁 者
		<p>⑤ プールの跡地利用については、地域と共有する多目的の広場を整備し、グラウンドゴルフ等で学校と地域が交流する場とすることを提案するがいかがか。</p> <p>(3) 小・中学校適正規模等基本方針について。</p> <p>① 富士市では、少子化が進み児童生徒数の急減が見込まれる中、教育環境の維持や教育の質の向上のため、適正な学校規模を検討する小・中学校適正規模等基本方針策定委員会が設置されたが、当市ではいかがか。</p> <p>② 市議会において、市長、教育長から学校の統廃合は無いとの答弁が繰り返されているが、どのような機関決定がなされたのか。</p> <p>③ 公共施設の44.1%を占める学校教育施設が更新時期を迎える際、公共施設の適正管理の観点から、ハード面での存続が難しい場合、ソフト面での統廃合は検討されるのか。</p>				